

2022年度 支援活動報告書

2022年度も全国で災害が多く発生しましたが、コミサポひろしまでは、前年度3月に発生した「福島沖地震」への支援を継続して実施するとともに、8月4日（木）からの豪雨で被災した石川県小松市、台風15号で被災した静岡県静岡市での活動を実施しました。

いずれの被災地においても、被災者、被災地域が直面する課題は多様化しており、当団体としてはこれまで蓄積してきた技術的ノウハウを活かして活動する他、社会福祉協議会、被災者の心のケアを得意とするNGOとより連携することで、被災者、被災地域のその後の生活再建を長期的に考え、また、支援団体がいなくなった後の地域を意識して活動した1年でした。

1. 活動概要

(1) 活動地域と実績

(表1)

	災害名称	活動期間	活動日数	活動地域	延べ対応ニーズ数	主な活動内容	延べ活動者数
1	福島沖地震	3月27日～ 5月12日	42日	宮城県角田市 山元町	51件	屋根の応急修理	108名
2	令和4年度8 月豪雨	8月8日～ 9月27日	49日	石川県小松市	63件	土砂・瓦礫撤去 床下処置 家屋応急修理	236名
3	台風15号	9月28日～ 12月16日	86日	静岡県静岡市 葵区/清水区	86件	床下処置 家屋応急修理	364名
		計	177日	-	200件	63件	708名

2. 各被災地での活動内容

(1) 福島沖地震

① 活動内容

- ・ 被害家屋の屋根の応急修繕活動
- ・ 倒壊および倒壊危険ブロック塀の撤去
- ・ その他、危険樹木等の撤去等

② 活動の経緯・成果等

活動開始にあたっては、以前より連携関係にあった地元宮城の団体「OPEN JAPAN」と情報共有を行い、被害が大きかった2市町の社会福祉協議会「角田市社会福祉協議会」「山元町社会福祉協議会」からの要請に基づき活動を開始しました。

この時期の地震災害は、梅雨前までに屋根の応急修理を終えておく必要があるため、被災世帯の生活状況、経済状況等を踏まえ、優先順位を付け確実にニーズに対応することが求められました。

結果として、梅雨前までに必要とされるニーズへの対応を終えることができ、その後の見守り等については、地元社協、団体に各世帯情報等を引き継ぐことができました。

③ 活動写真

(屋根での活動の様子)



(高所作業車を活用した瓦撤去)

(ドローンを活用した被害確認、活動撮影)



(倒壊ブロック塀の撤去)



(各団体との打合せ・情報共有)



(若い担い手に技術を伝える)



④ その他、活動の所感等

屋根の上での活動は常に危険が伴い、高齢な住民さんがシートを張る際に転落したと言う話もしばし耳にします。出来る限り住民さんが無理をせず生活再建に繋げるためには、ボランティア活動はとても大切だと考えています。今回、高所作業車やドローンを活用した安全確保等に取り組みましたが、出来る限り安全・安心に配慮することは、若手の担い手育成においても重要です。今後は、より安心安全に気を配り、被災者さんの生活再建にいち早く繋がる活動を模索していきたいと考えています。

(2) 令和4年度8月豪雨

① 活動内容

- ・ 被災地域からの重機を活用した土砂、瓦礫の撤去
- ・ 床下からの土砂出し、消毒等処置等
- ・ 家屋再生に向けたカビ対策、壁の処置等
- ・ 倒壊家屋の撤去等

② 活動の経緯・成果等

石川県には、当団体のボランティアとして長らく携わっていた関係者がいたこともあり、メンバー間で話合った結果、特に被害の大きかった中海地区で活動をするため被災地に向かいました。

コロナ禍だったことから、当初は活動を認知してもらうことに苦労もありましたが、徐々に地域からお声がけ頂くようになり、最終的には、自治会長や関係機関との会議を持つまでに至りました。

また、被災地域は建物床面積が大きな家屋が多かったことから、1件への対応に数日から1週間以上かかるケースも多かったものの、その分、被災者さんとのコミュニケーションが活発になり、その後地域のサポーターとして協力してくれるなど、嬉しい展開もありました。

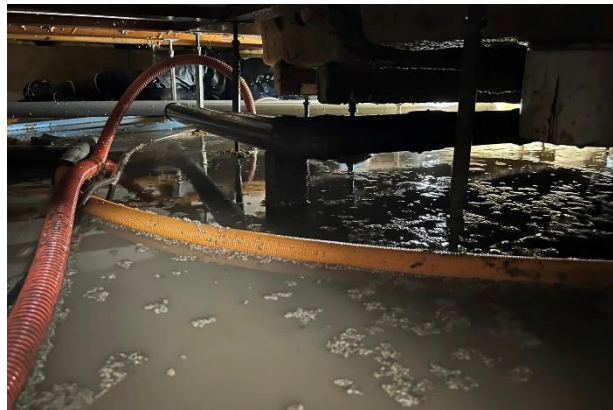
合わせて、活動の中で地元の若手グループと繋がりが出来、その後の地域の復旧等についても意見交換など持てた点は1つの成果だったと考えています。

③ 活動写真

(災害ゴミの撤去)



(泥が溜まった床下)



(カビの生えた壁の撤去)



(地域、関係機関との打合せ)



(活動後に修復された蔵)



(被災者さんも一緒に活動)



④ その他、活動の所感等

引き続きコロナ禍での活動であり、制限が多い活動となりました。しかしながら、これまで以上に多数の被災者さんと関係性を築くこともできました。その中で、地元自治会関係者が広島の被災地に訪れ、被災地同士で意見交換を行うなど嬉しい出来事もありました。

ただ土砂を出す、家屋を修繕するだけでなく、被災者さんと寄り添いながら、一緒に再建に向けて進む、改めてその大切さを感じた活動でした。

(3) 台風15号

① 活動内容

- ・ 被害地域からの重機を活用した土砂、瓦礫の撤去
- ・ 地域内からの不要家財等の集積所までの搬出
- ・ 床下からの土砂出し、消毒等処置
- ・ 家屋再生に向けたカビ対策。壁の処置
- ・ ボランティアコーディネート等

② 活動の経緯・成果等

石川県小松市での活動終了直前に台風15号による災害が発生しました。静岡県には当団体の発足にも関わってくれた支援者がおり、その方の仲介で静岡県、および静岡市社会福祉協議会と協力する形で活動することを決定し、小松市より直接静岡市に移動し活動をはじめました。

活動では、生活困窮者や障害を抱える被災者宅での活動等、これまで以上に福祉的課題を抱える世帯での活動が多く、小松市とともに活動した「被災地NGO協働センター」と一緒にハード・ソフト両面からの支援活動を行いました。

また、将来の地域での見守りなども意識し、該当自治会との信頼関係づくりも意識し、直接災害に関係しないと思われる相談についても積極的に対応するなど、地域の実情に合わせた活動を心掛けるとともに、地域団体への技術的ノウハウをお伝えするなどした結果、「しぞーか、まめっ隊」などの新しい団体が立ち上がるなど、その後に繋がる活動ができたと考えています。

③ 活動写真

(ボランティアさんと協力した被災家財の搬出)



(地域住民さんと一緒に溝の土砂出し)



(スタッフ、ボランティアの皆さんと)



④ その他、活動の所感等

コロナの影響が多少下火になっていたこともあり、住民さん、県内のボランティアさんなど、様々な人たちと一緒に活動を行うことが出来ました。中には小学生を連れてボランティアに参加する家族などもおり、久々にボランティア活動の可能性を広く感じることでできる活動となりました。

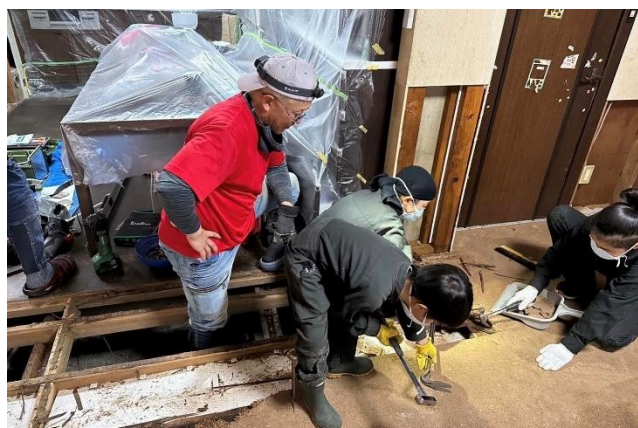
一方、福祉的課題を抱える世帯への対応では、困難な場面にも直面することもあり、より広い知識やネットワーク、息の長い見守りの必要性などを感じた支援でもありました。

災害は、起こった時期、場所、災害種、地域の特性等、1つとして同じものはないということを実感し、団体として臨機応変さ、寄り添いを常に忘れないようにしていきたいと考えています。

(床下の土砂出し、消毒)



(小学生ボランティア)



(壁の応急修繕)



3. 寄付金の使途について

皆さまからのご寄付大変ありがとうございました。NIPPON ITチャリティ 駅伝様からは、550,000円のご寄付を頂き、主に、台風15号での支援を通して、被災者さん、被災地域のいち早い復旧・復興、生活再建のための活動に充てさせて頂いています。

また、一部金額については、2023年度に備えて繰越金として扱っております。

(支出内訳)

	項目	金額 (円)
1	移動交通費	40,180
2	燃料費	71,809
3	消耗品費 (床下処置、家屋再生にかかる消耗品)	147,336
4	備品費 (工具等)	82,179
5	拠点借上げ費 (スタッフ、ボランティア宿泊所)	100,000
	支出 計	441,504
	(支援金) - (支出) = 繰越金	108,496

4. ご支援頂いたみなさまへ

この度は、コミサポひろしまへのご支援ありがとうございました。当団体が活動を開始してから8年が経過します。

まだまだ被災地で思い悩む場面も多く、毎夜スタッフや関係者、時に被災した地域の皆さんと一緒に、どうすれば被災者さん、地域にとってより良い生活再建、復旧、復興に結びつくのか、喧々諤々の議論を行いつつ活動を行っています。

災害が起こらないことを祈りつつも、起こってしまった際には、これまでの経験を活かしつつ、災害によって変わってしまった日常が、それ以前とは形は変わってしまうかもしれませんが、新しい日常として前向きに被災者さん、地域の皆さんに受け止めてもらえる環境が創れるよう、微力ながら活動を続けてまいります。

小さな団体ではありますが、これからも応援よろしく願いいたします。